

担い手育成特定資産事業 活用事例紹介 田村 一希さん(八幡平市)

取材担当 盛岡地方農業農村振興協議会(八幡平農業改良普及センター) 高橋 寿夫

八幡平市で令和3年に就農した田村一希さんを紹介します。

田村さんは岩手県立農業大学校を卒業後、農業関係の仕事に就いていましたが、「八幡平市でりんどうの栽培をしたい」との想いで、就農を決意しました。

元々実家が農家で水稲とミニトマトを栽培していましたが、御本人は新たにりんどうを導入するため「新規就農スタートアップ支援事業」により、就農1年目は農事組合法人大石平農園でりんどう栽培の指導を受けながら基本を学びました。

農業大学校では花き経営課で、りんどうの栽培についても学んだ田村さんですが、生産者として農業に関わってみると、技術面、経営面で新たな気づきも多かったと言います。

令和5年度には、栽培面積を現在の60aから80aまで拡大する予定とのこと。

今年度は自走式防除機やマルチャーの導入を予定しており、技術習得、経営力向上に意欲的に取り組んでいます。

今後、様々な課題を乗り越え、地域のりんどう生産をけん引する担い手として、ますますの活躍を期待しています。



大石平農園の武田氏から指導を受ける
田村氏(左側)



りんどう圃場へ肥料散布する田村氏